

# 会 報

## 理 事 会 報 告

(平成21年度第2回)

日 時 平成21年9月3日  
 場 所 結核予防会  
 出 欠 理事(30名中)出席:渡辺理事長,鈴木(公)・森下・山岸常務理事,倉澤会長・中島次期会長・鎌田・馬島・尾形・佐々木・巽・小川・長谷川・鈴木(栄)・梅・網谷・重藤・富岡・相沢・河野・菅 計21名。清水支部長。欠席により委任状:藤兼・武内・石坂・長尾・橋本・一山・鈴木(克)・田中・中西 計9名。欠席:阿彦・西村監事・石崎支部長。

### 報告事項

- I. 第84回日本結核病学会総会会長挨拶
- II. 第85回日本結核病学会総会準備状況
- III. 第86回日本結核病学会総会準備状況
- IV. 委員会報告
- V. その他

### 議 案

- 第1号議案 結核・抗酸菌症認定医・指導医認定制度の導入
- 第2号議案 委員の推薦について
- 第3号議案 委員の任期について
- 第4号議案 委員会規程の追加
- 第5号議案 電子メール承認
- 第6号議案 編集委員会からの提案
- 第7号議案 国際交流委員会からの提案
- 第8号議案 その他

鈴木常務理事より会の成立が述べられた。

渡辺理事長着任の挨拶:結核予防法が感染症法に統合された状況を受けて,広く感染症全体から結核を見直し,本学会の使命を推進していきたいと思ひます。

渡辺理事長の司会により開始。

### 報告事項

- I. 第84回日本結核病学会総会会長挨拶(岸不盡彌前会長 渡辺理事長代読)

第84回日本結核病学会総会は去る7月2・3日札幌市にて開催いたしました,会員諸先生方のご支援・ご協

力のお陰によりまして盛会裡に終了することが出来ました。まことに有り難うございました。テーマを「幅広い結核対策～感染症法のもとでの展開～」と致しまして,招請講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・ミニシンポジウムに加え,要望課題と一般演題では184題の発表を頂くことが出来ました。参加者は765人(有料入場者713人)でした。ここに心より御礼申し上げます。なお,運営の上で不行き届きな点多々ございましたが,ご容赦下さいますようお願い申し上げます。また,収支決算報告につきましては,未だ残務整理が残っておりますので次回の理事会で報告させて頂きたいと思ひます。結びに,渡辺新理事長はじめ新理事の皆さんのお力で,本学会が結核撲滅のために益々発展されますよう祈念申し上げます。

### II. 第85回日本結核病学会総会準備状況(倉澤会長)

(本誌前付頁参照)来年総会は,感染症学会・呼吸器学会も4月に京都なので,参加者が集まるようご指導願ひたい。

### III. 第86回日本結核病学会総会準備状況(中島次期会長)

日本教育会館 平成23年6月2日(木)～3日(金)

### IV. 委員会報告

#### 1. 編集委員会(山岸委員長)

アーカイブ化申請:8月10日,独立行政法人科学技術振興機構に申請した。平成17年度から紙媒体雑誌の電子媒体化を無償で行っている。現在約200誌,医学に限らず,70万の論文が登録されている。9月中旬に文部科学省から発表がある。採用されると結核誌第1号からすべて電子媒体化するため,保存・閲覧に利点がある。

#### 2. 社会保険委員会(尾形委員長)

新しい技術評価の要望を内保連へ提出した。①結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン- $\gamma$ 測定,②抗酸菌分離培養検査1,③結核菌群リファンピシン耐性遺伝子同定検査,④抗酸菌薬剤感受性検査,⑤排泄物,滲出物または分泌物の細菌顕微鏡検査。これらは毎年1回保険委員会として診療報酬改訂を要望している項目だが,今回は特にクオンティフェロンとMGITについて値上げをお願いした。南札幌病院検査室のデータによれば,クオンティフェロンは40人分1キットを1回の検査では使ひ切れなため概算原価5000円ほどである。しかし診

療報酬上の価格は4200円であるため不採算な検査項目となっている。厚生労働省担当者から、他の国立病院機構やそれ以外の施設で1回の検査当たり何人分が無駄になっているかが分からないと適正価格が設定できないので、その数のデータを提出するよう要求された。みなさんの施設にも調査がいくかと思うのでご協力をお願いしたい。

### 3. 将来計画委員会（森下委員長）

①委員会の統合：次期任期である平成23年度から、統合できる委員会を検討する。対象委員会については、各委員会から提案していただく。

②生涯教育セミナー：日本呼吸器学会との合同企画はICD講習会として、昨年・今年と実施してきた。来年からはICD講習会が合同企画から外れて独立し、日本呼吸器学会の感染症結核部会が主催することとなった。それに伴い、合同企画は、平成22年から結核講習会（生涯教育セミナー）として開催する。生涯教育セミナーの形になるため、合同企画は教育委員会からICD制度認定委員会に移管する。来年のプログラムは下記のように決定された。

会 期：平成22年4月

テーマ：一般病院において「結核対策」はどのようにするか？

座 長：日本結核病学会 ICD制度認定委員会委員長，  
日本呼吸器学会感染症・結核部会長

1. 一般病院での結核の診断治療状況—保健所への届け出等の事務的対応も含めて— 演者：山口理世氏（神戸市中央区保健部）「結核患者はどこを初診で受診し、どこで診断され、どこで治療されているか？」
2. 結核の診療—陰圧個室を持たない一般病院の立場から— 演者：戸島洋一氏（東京労災病院）「どの程度の患者まで治療するべきか？」「多剤耐性結核は？」「どの段階で患者を送るか。—患者転送の目安—」
3. 結核の診療—陰圧個室を持つ一般病院の立場から— 演者：新美 岳氏（名古屋東部医療センター東市民病院）
4. 結核の診療—結核専門病院の立場から— 演者：露口一成氏（近畿中央呼吸器センター）「患者受け入れの目安—どの段階で患者を送って欲しいか—」「腎不全等の他病合併患者の治療はどこで行うか？」
5. 医療機関の結核予防対策 演者：飯沼由嗣氏（京都大学）「院内感染対策—医療従事者と患者に対する対策—」

③第85回ICD講習会：来年の日本結核病学会総会時に開催されるICD講習会はICD制度協議会で第85回と決定され、下記のように認定された。テーマ「結核の院内感染対策」。司会：鈴木克洋氏・矢野邦夫氏。予定演題：

1. 結核の見逃しをなくすために
2. 結核院内感染対策

総論 3. 結核の院内感染対策におけるQFTの活用

4. 結核の院内感染対策における保健所の役割

### 4. 教育委員会（長谷川委員長）

「結核の基礎知識」：学生用講義のPowerpointを全国医学部に配信したい。教育委員会へのご意見があれば寄せてほしい。

### V. その他

未承認薬・適応外薬に係る要望書（渡辺理事長）：厚生労働省から各学会に意見募集の依頼があった。8月17日、1位：LVFX（結核症治療薬）、2位：RFP（NTM症治療薬）、3位：EB（NTM症治療薬）の順位で要望を提出した。日本呼吸器学会へも申し入れ、共同で提出した。

## 議 案

**第1号議案** 結核・抗酸菌症認定医・指導医認定制度の導入（森下常務理事）

応募資格・認定要件について承認された。平成22年5月評議員会・総会に提出し、承認を受けて、平成23年生涯教育セミナーから有効とする。第1回認定医の誕生は、平成23年9月申請受理後となる。専門医制度協議会には属さない。セミナーに参加し勉強してもらうことが趣旨の制度とする。対外的には、感染症診査会の医師を専門医から選ぶよう働きかけていきたい。関連の諸学会へ専門医制度をPRする。（承認された）

**第2号議案** 委員の推薦について（鈴木常務理事）

第86回プログラム委員 支部推薦：三木 誠（東北支部）、大森一光（関東支部）、田口 修（東海支部）、飯沼由嗣（近畿支部）、山本善裕（九州支部）、会長推薦：後日持ち回り承認とする。

プログラム委員選出の内規：支部推薦5名・会長推薦5名。第86回支部推薦を選出の支部：東北・関東・東海・近畿・九州。会員の多い関東・近畿からは毎回推薦とする。第87回：北海道・北陸・中国四国から推薦する。

委員長推薦委員：編集委員：金澤 實，菊池功次，下内 昭，森 亨，山崎利雄。抗酸菌検査法検討委員：阿部千代治，小栗豊子，斎藤 肇，二木芳人。国際交流委員：小野崎郁史。

**第3号議案** 委員の任期について（鈴木常務理事）

ICD制度認定委員の任期は、平成22年総会終了日までである。現在の委員の任期を、平成23年総会終了日までの3年に変更することにより、他委員会と同じ任期終了とする。

**第4号議案** 委員会規程の追加（鈴木常務理事）

ICD制度認定委員会・ホームページ委員会の規程を追加する。（承認された）

**第5号議案** 電子メール承認（鈴木常務理事）

経費削減のため、今後は持ち回り承認を電子メール承

認とする。(承認された)

#### 第6号議案 編集委員会からの提案 (山岸常務理事)

投稿規定の追加：委員会報告の著作権料無料化に伴い、一文を追加する。投稿規程19「但し、委員会報告と無料出版物については無料とする。」(承認された)

委員会報告の英文化：前回理事会の承認事項であるが、業者・時期等を常務理事会で検討後、理事会に提案したい。

#### 第7号議案 国際交流委員会からの提案 (河野委員長)

国際交流委員会活動計画・予算について：要綱：①アジア地域の結核の現状と中央ガイドラインの必要性を調査する。②行政や学会からの情報以外に、現地での情報を入手する。③持込結核の状況について検討する。④海外の結核関連の学会との交流をする(アジア太平洋呼吸器学会など)。

#### 活動1：結核診療ガイドライン英訳および雑誌への投稿

当委員会ではこれまでアジアを中心とした各国の結核医療ガイドラインについて情報を収集してきた。今後さらにアジア地域の結核の現状について情報収集に努めるとともに、本学会から出された日本の新しい診療ガイドラインを英訳し、国際的な目にさらすことと、アジアでの応用を図ることは、今後の当委員会の活動になりうる。英訳された診療ガイドラインはアジア太平洋呼吸器学会雑誌等への投稿を目標におく。英訳は結核病学会国際交流委員会メンバーの監訳のもと、専門業者に依頼することを検討している。かかる費用は現在2社に依頼し、以下のように見積もられている。訳：約200～300万円。投稿費：別途。

活動2：アジア諸国からの労働者、留学生等の結核患者が治療途中に帰国する際の紹介診療機関リストの作成

これらの患者については、大多数は帰国後治療のため

の診療機関受診を患者に任せているのが現状かと思われる。当委員会では、この問題につき、情報収集可能ならば主要な国の医療機関リストあるいは各国結核対策官等といったキーパーソン連絡先リストの作成、それらとのコミュニケーションについても努力していく。

(理事長) 良い提案であり進めたいが、執筆者の承諾や監訳の依頼先など詰めなければならないことが多いので、常務理事会で細部を話し合い、河野委員長と協議のうえ、持ち回り承認で諮りたい。

(理事長) 活動2は、本部事務局から評議員へメールを出してもらい、本部に情報を出してもらう。(承認された)

#### 第8号議案 その他

(長谷川教育委員長) 教育委員会へのご意見があれば寄せてほしい。

(河野理事) 全国には結核に詳しい先生がいない大学もあるので、学生講義用のPowerpointなどの資料があるとよい。

(森下前教育委員長) 「結核症の基礎知識」(スライド集)が絶版になっている。既に「ホームページに掲載しダウンロードできるようにしたい」という要望は、前理事会に提出承認済みであるが、「結核症の基礎知識(論文)」と同様作成が遅れている。できるだけ早く提出したい。

(複数の理事から) 多くの病院がフィルムレス化されているが、感染症診査会用に保健所にだす写真は全国でどうしているのか? 紙にプリントしてくる施設があるが、プリントは画質が悪く判定困難である。

パソコンを用意して小さな画面を診査員が交互に見るところもあれば、プロジェクターを買ってもらって大画面を見ながら全員で検討しているところもある。

以上で理事会は終了。